



依日... 一ヶ月... 二ヶ月... 三ヶ月... 四ヶ月... 五ヶ月... 六ヶ月... 七ヶ月... 八ヶ月... 九ヶ月... 十ヶ月... 一年... 二年... 三年... 四年... 五年... 六年... 七年... 八年... 九年... 十年... 二十年... 三十年... 四十年... 五十年... 六十年... 七十年... 八十年... 九十年... 百年...

縣藥劑師役員會の 醫藥分業運動協議

十二日福島市ビルヂングで 地方醫師の不都合を叫ぶ

本縣藥劑師會の役員會は十なく處方箋を拒絶した事實
二日午後三時福島市ビルヂングにあるので藥劑師會から之
に對して開催された石城からを訴へてゐるに拘らず當局
の出席は理事山野邊東次郎は耳もかしてゐないといふ
氏外二名で縣衛生課中田技師、齋藤技師手席
師、齋藤技師手席

石城の第二期 所得稅

半額は平町
に於て納入
第二期の所得稅は十月二十
五日の納入期で翌月三日町
村役場から送納されること
になつてゐる平稅務署管内
の同稅額は一萬八千七百七
十六圓二十八錢であるが平
町が其の大半を占め主なる
町村を上げれば左記の如く
である。

九圓三十九錢	内郷千二
百五十九圓三十九錢	勿
來八百八十八圓五十八錢	
植田四百九十六圓八十九	
錢	小名濱四百七十二圓
九十錢	四倉四百三十八
圓六十七錢	

小川村の 勸業協議

十ヶ年計畫
の完成協議
石城郡小川村では十一日午
後一時同村役場に勸業協議
會を開催し橋本郡駐在技手
及び郡農會青山技師、木名
瀬平穀所長臨席左記諸項
が協議し過般地方勸業協議
會に協議された向ふ十ヶ年
計畫の完成を決議した向は
木名瀬所長から産米の改良
の講演及び稲稈乾燥の實
地指導を行つた。

赤井藥師の 詠歌競演

和讀も加へて 合唱並に獨唱

石城の名刺赤井藥師十二
神將講では同神將銅像建立
三週年參拜記念として來る
十七日舊八月二十六日同山

高坂北二坑に出水 ダムを施して廢坑

一日出炭百噸の小部分で 労働者八十名に過ぎない所

磐城炭礦の高坂北二坑道
内水準下千四百六十尺の個
の爲めに排水容易でなく約
所は排水ポンプ二臺を据着
けて置く集水點で先月初旬
來湧水量を増加しつゝあつ
たが

俳句

秋ピクニック (五)
満壽莊主人
萩を見て居ればさき
招きけり 乙 由
再びさきの原中に立つて
秋風に吹かれながら閑寂の
趣きを味つて居ると不意に
大勢のわめくのが聞へるそ
れはさきの中からさつと
出て居る釣竿で此近處の沼
か池へ釣に行く人が得物の
有無釣場所の適否等を語り

平署管内の 産婆會

來十六日午前 九時平署にて

平署管内に於ける産婆會で
は去十日からの健康増進週
間中に於て十六日午前九時
半より平署會議室に總會を
開催の筈であるが會費三圓
である。

不景氣を知らぬ 納稅怠慢

平稅務署で
滞納處分中
平稅務署では去九月納入分
の畑地租、營業收益稅二
百件の滞納を處分中である
が此の稅額は二百餘圓に止
つち行きこつち行きしなが
ら無いぞ、どうも無いな
アどうしだんだらうなア確
かにあり相な場所なんだが
のナンセンス味を發揮しBつ
はしきりに其處のくさむら
このボツツカを撒廻して
無言で熱心に眼を輝やか
無暗に緊張して居る有様は
茸狩や金落したるうしろ
つき 芭舟
の滑稽劇を演じて居る漸く
の滑稽劇を演じて居る漸く

自動車 事故

下高久地 先縣道で

平町野崎自動車部の運轉手
茨城縣多賀郡磯原町の上相
田生れ原光男(三三)は十三日
午前九時頃石城郡高久村の
下高久字龍地先縣道を乗合
疾走中運轉臺脇に積んで置
いた客の小荷物が一ツレキ
いた客の小荷物が一ツレキ

出生と死亡

出生 平町鐵道官舎信
澤辰藏四洲十月一日午前
二時
の蝶の姿こそ哀れ深きもの
なりけらし
ちり／＼と西日のさすや
唐辛子 梅年
て畑中の唐辛子の赤い色に
かくて式家にたどりつき余
りに咽喉のかわきたれば茶
なとをばんと思ひたるに其
門前に行けば立札いかめし
く 諸勸進這入るべからず木
椀垣 一茶
とあるに與せてある掛
茶屋に休息して歸りぬ本椀
と云ふむくつき者と主人
の人格の對照面白からずや
(終り)

學校荒しの 賊逮捕

御臺境で遺損 じて足がつく

石城郡内郷村の御台境農草
野助三郎方へ十四日午前二
時頃賊忍び入り家人に發見
されて逃走したが急報によ
る平署の嚴探で同日午前八
時半町で逮捕された犯人は
同町字大工町大工職柴田元
榮(三三)と稱し先頃來頻繁な
學校荒しも同人の所爲ら
しきものであり他に數件の窃
盜あるので引續き取調中で
ある。

俳句

草の戸やたコスモスの
ひよろ長く 櫻園
咲いて居る式家の前を通つ
て行く朝來の風止んである
かなしかの夕風にひよろ長
いコスモスのをよりそより
と戦ぐのに戯るゝが如き秋
(終り)



柿栽培法 (十)

農村に最も
有利な果樹

●脱澁法 柿の澁脱き法には柿ぬき、焼酎ぬき、湯ぬき、塩水ぬき、瓦斯ぬき等あるが此の外乾燥によりて脱澁せしむる所謂乾柿なるものがある、左に最も普通に行はるる柿ぬき焼酎ぬき並に乾柿について述べて見やう

焼酎ぬき、普通石油箱若しくは同じ大いさのものを使用して空気の漏れない様に新聞紙を三重に内側の周囲に敷いて、之れに無傷の果實ばかりを積み果梗のために傷まない様に密に蓋とへたとが相接する様に詰めながら四〇パーセント位の焼酎を吹きかけるのである、而して一箱六、七勺の焼酎を全体に行き渡るやう吹きかけ上に三枚位の新聞紙を蓋として釘付け繩で結縛するのである

斯の如くしたるものは温度低ければ二週間、高ければ十日位で脱澁する然し品種によりては脱澁し難いものがあるから、なるべく脱澁し易い品種を撰ばねばならぬ、焼酎ぬきは簡単に輸送に便なるがため営業者の出荷には至極適當の方法である

柿ぬきは焼酎ぬきと其

理由は同じであるが、たゞ柿は密閉出来るから新聞紙の必要はない、諸方は焼酎ぬきと略ぼ同様なものも中央に小さな蓋を挿入しこの蓋と柿の内側に充分酒を吹きかけるのである、勿論詰めながら果實にも吹きかけて密閉する、酒の量は四斗樽位のもの一樽に對し二合位で約十日間に脱澁するものである。

スペイン G.H.N 元 詰

甘味葡萄酒

ゴルフポートワイン

¥ 1.10

御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です

(電話) 西村屋薬舗 (三番)

賣品良の音年様客待

山澤荷人物冬秋

店服吳閑仔

磐城 平町

印刷 玉章堂

三丁目元都役所通

御進物には
商品切手

味の馨油
正 宗
鐘詰鯉節

山崎會社
合名

電話 釀造部 二七番
営業部 一〇番

入湯時の快感を
「カクニ石鹼」で

品質純良
價格低廉
心地よい泡立
優雅な香

壺 金拾錢
ツルヤ

平町四丁目
電話一四〇

外科 小児科 梅毒 淋病

市原醫院

電話 〇一五

入院應需

藤沼醫院

電話 七〇五

召上りせ

安くて
うまくて
品がよい

カフェエー
タイラ食堂

(電話) 番 〇二六

サロンの
平町四丁目
電話三五三

諸毒下しの大妙薬

安流丸

特約 山野邊

小學生用長スポン付

特製	95錢	ヨリ
極上品	140錢	ヨリ
中學生用		
特製	170錢	ヨリ
極上品	250錢	ヨリ

断然特賣の超尖端

の通學服

買い良き店
5丁目
モリタヤ洋品店
電話 353番

信玄高々
信玄高々
信玄高々

信玄高々

信玄高々

信玄高々